

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH WEEKLY



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：山田 安隆 幹事：大村 精二

会報委員長：清水 忠

1975・5月1日

第39号

“お、ロータリアン”の出版に寄せて

第361地区パストガバナー

若松 徳 衛氏

拝啓 “お、ロータリアン” 20冊早速ご恵送下さいましてありがとうございました。

試みに友人に見せて批評を乞いましたところ、なかなかの好評です。

1週間後には同期のパストガバナーが集りますので、何かの手土産代りになると喜んでおります。代価相当分は貴クラブのニコニコボックスに投入させていただきます。

発行部数5千によって単価を割安にというご苦心の程、敬意を表します。川嶋ガバナーとも打合せ、地区内全ロータリアンに購読願えるよう努力していたゞくつもりです。

反響は読了後でなければ現われないでしょうが、私は本書が必ずベストセラーになり、ロータリアン諸君の高い評価を受けることを信じます。

金沢北クラブの皆さんの一層のご発展を祈ります。

九拜



卯辰山碑林散歩 (13)

—— 観音院あたり ——

元和2年当時の絵図をみると、観音院は金沢一の広大な大寺であった。

境内には立派な能舞台があって、こゝで催される神事能は、明治2年にいたる250年間、町民の大きな楽しみであったという。

写真の句碑は境内にあり、
“朝霞 橋まで来れば 山の裾、とある。
金沢ひさご句会の主幹田中雨人の句。

私の職業奉仕

上 次 作

企業経営に、財産の運用に、或は財産移転等において、継続的であれ、偶発なことであれ、税の問題が関係しないことは全くないし又これを避けて通ることは許されないことは当然である。

ところで好、不況、年齢の差、立場地位の差により税務相談事項にも千差万別の差はあるが、企業の発展と適法な節税を願わない人は一人もいない。常日頃事業経営のあり方等について経理面を通じての内容分析検討、或は財産管理の適切な税務対策などについて相談を受け、これに対処することを業とする者としての職業奉仕の信条は何と云っても相互信頼のもとに常に関与先の身になり生きた計数を十分活用しながら適法な方法を見出し、慎重な判断によるアドバイスを申しあげることだと思っている。又企業の存在は経営者の判断力が何と云ってもモノをいい、それに勇気と実行力により左右するといわれているがその判断の材料提供にたずさわる者として、これまたその責任の重大さを痛感するものであります。

これがため経済情勢の動向や、改正目まぐるしい各税法、通達等を研さんしながら、依頼事項の解決のため真剣に取り組むことが相手方の期待にこたえる最善の態度であると信じています。

よく耳にすることだが税法を自己流に又自分に有利なように安易な解釈をし、大変なトラブルの因になっている事例がある。例えば節税のためにと、とられたはずの財産管理の措置において、法人利用の方法にしろ、家族への積極的財産移転の方法にしろ、同族会社の持株分与をめぐる税の問題、又は会社分割をめぐる税務処理等において、節税どころか思わぬ重税を余儀なくされたことをよく聞いている。相談ごとにはつねにデータの洗いざらい交換することが適切な判断を下すためにも最も肝要かと思えます。

日頃経理或は応接には、たえず企業秘密あり、財産保全の諸問題あり、家庭秘密あることから相互信頼のもとに相手の身になり適法で有利な方向に善処し、健全な企業の発展のための力添えに努めるとともに、一面公共性をおびた職責の重要性をも充分考え、ベストをつくさなければならぬ。この信条こそ私の職業奉仕への真髄と思っています。

◎税金1,000円のゆくえ（昭和49年度国税1,000円あたりの用途）

166円	公共事業関係費	115円	教育科学振興費	200円	縣市町村への交付
64円	防衛関係費	203円	社会保障関係費	252円	その他の費用

◎生徒1人あたりの教育費負担（国・地方公共団体の負担の合計額）

小学校	昭和42年度	69,000円
	昭和47年度	158,000円
中学校	昭和42年度	73,000円
	昭和47年度	177,000円
高等学校	昭和42年度	86,000円
	昭和47年度	209,000円

金沢北RCの評価と今後の課題

当クラブが、革新的に機構を改善し、国際奉仕、社会奉仕、職業奉仕および例会、拡大、企画、情報、親睦、修練の9委員会に整備統合し、均衡と機動性に富む委員会活動を志向、且つその委員長にはすべて理事を配した、これらのシステムは、日本ロータリーにおいてはモデル的、画期的であり、大勇断であった。果然、新機構の経過は予期以上の成果を見ているようである。

チャーターナイトは、華美を排し、雄大なる計画の“ロータリー梅林”の造成並びに権威と価値ある記念講演に重点をおいたのは、お祭り騒ぎにとかくの批判ある折柄、賢明であった。然し梅林の完成には、継続事業としての責任と努力が強く要請される。

昨年6月度以降の例会出席率100%持続は、強制のない自然なる姿の中の実績として高く評価されていいと思う。

職業奉仕の重要性を再確認し、県内全クラブに呼びかけ、自らも参加し、ホストをかって出て“職業奉仕に関する石川県研修会”を実現せしめて、貴重な成果を得たのは、特筆されるべき当クラブの業績となった。

クラブ創立以来、この3月末で74回の例会を迎えたが、この間、当クラブ会員の卓話19回を数えるに至ったのは、クラブが指向する大きな収穫と言えよう。今後もこの方針の踏襲が望ましい。

国際奉仕の一環として、東南アジア学徒の日本留学を支援目的の“米山記念奨学会”に対し、去る2月のロータリー創立記念日に、全会員から特別寄金を得たのは意義深き発想であった。なお4月28日は、“米山記念奨学会週間”であるが、これは日本ロータリーの創始者故米山梅吉氏（昭和21年4月28日逝去）の遺徳を偲んでの行事であるので、これらの機会にも重ねて特別寄扱も一策ではなかろうか。日本のロータリーは、ロータリー財団にひかれて米山奨学が忘れられんとしているのは遺憾である。

クラブ創立1ヵ年目に3名、更に6ヵ月後2名の新会員を選んだ。ロータリーの拡大にそいつつ慎重、厳選、優秀なる人材を迎えたのは欣快である。しかし、IRC50名を単位とし、限度とすべきは多くの事例によって知らされている。無節操な増員はクラブの中身不随となるのは明かであり、量より質は鉄則である。当クラブの標榜する“最少の会員、最大の奉仕”は厳しく堅持されねばなるまい。

当クラブの会報は天下一品の観がある。会報には機関誌としての目的、使命があり、それを逸脱しては華麗であっても評価されない。要は内容である。いよいよ充実した誌面展開を期待して止まぬ。

ニコニコBOXは、クラブ創立以来1年6ヵ月（昭和50年3月末）の累計80万円になんなんとしての活況であり、40名内外の会員による業績としては立派である。この資金は社会奉仕に活用されるところに大きな意義と善意がある。

ロータリーの親睦は重要である。が、シンプルに、謙虚に、内容あるものであらねば、ロータリーの指標がぼけるのみならず、世の批判が厳しくなるであろう。幸い、当クラブのそれは英智と良識に生かされている。日本のロータリーはビジターに対する接待に欠けていると言われるが、きさくに語りかけることに始まって、もっと積極的に友情が表現されるべきであろう。今後考えられるものの一つに姉妹クラブがある。知識と友情の交流となる。

例会は、環境も食事も抜群である。日本の例会は型にはまって千変一律と言われるが、例会の目的と重要性にそいつつ、新機軸が編み出されないものであろうか。また夜の例会は、年4回くらいあってもよいのではなかろうか、親睦とクラブフォーラムとしての効果は大きい。

ロータリーの根本を訓える名著“お、ロータリアン”の5,000部出版は勇断であり偉業であった。日本ロータリーの歴史に残る香り高き快挙と言えよう。

クラブの基礎は出来た。いよいよ相携えて、一步一步ふみしめての着実な活動に、理想のロータリーを築き上げようではありませんか。

（修練委員長 柴田三郎）

